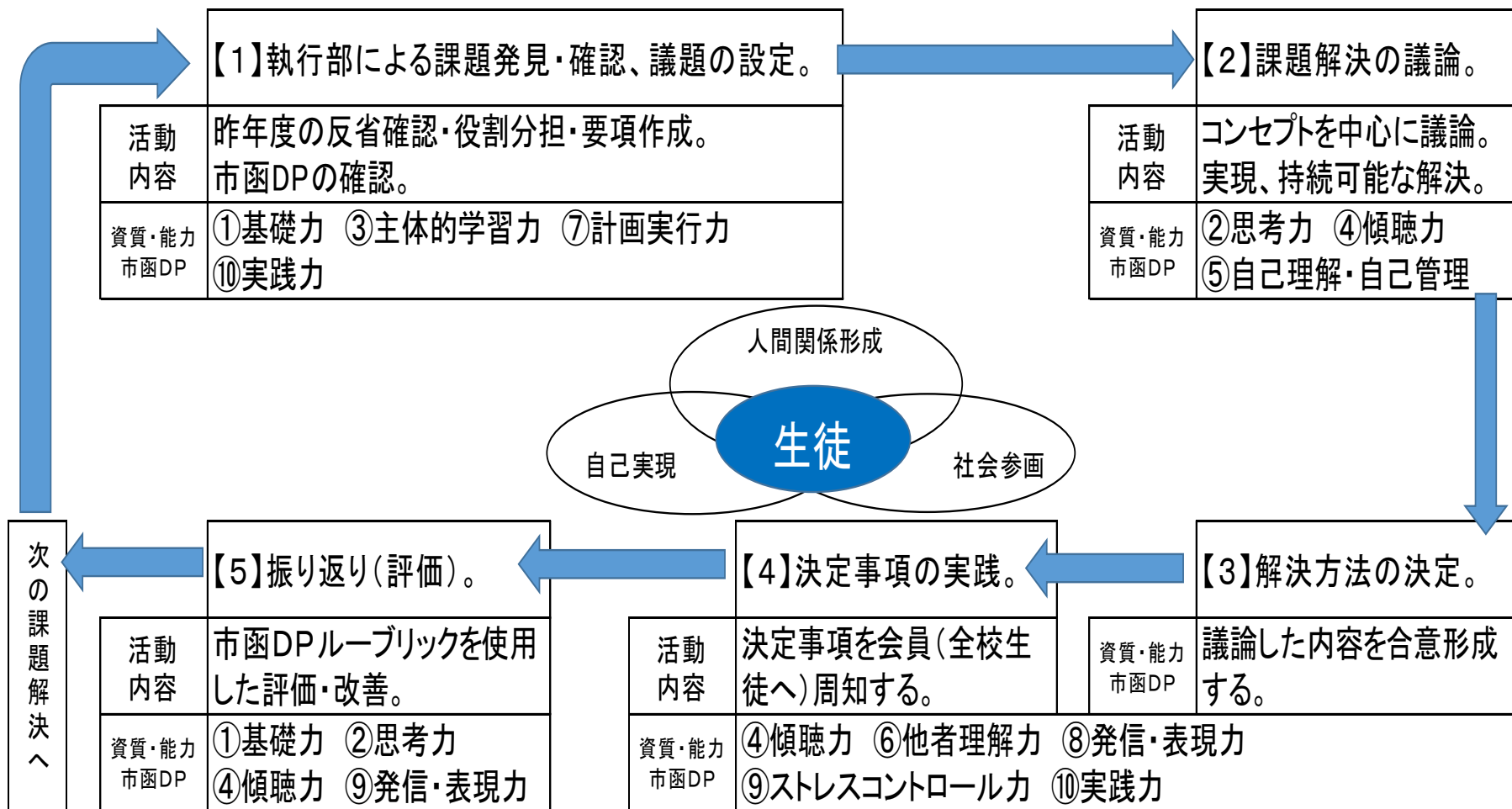


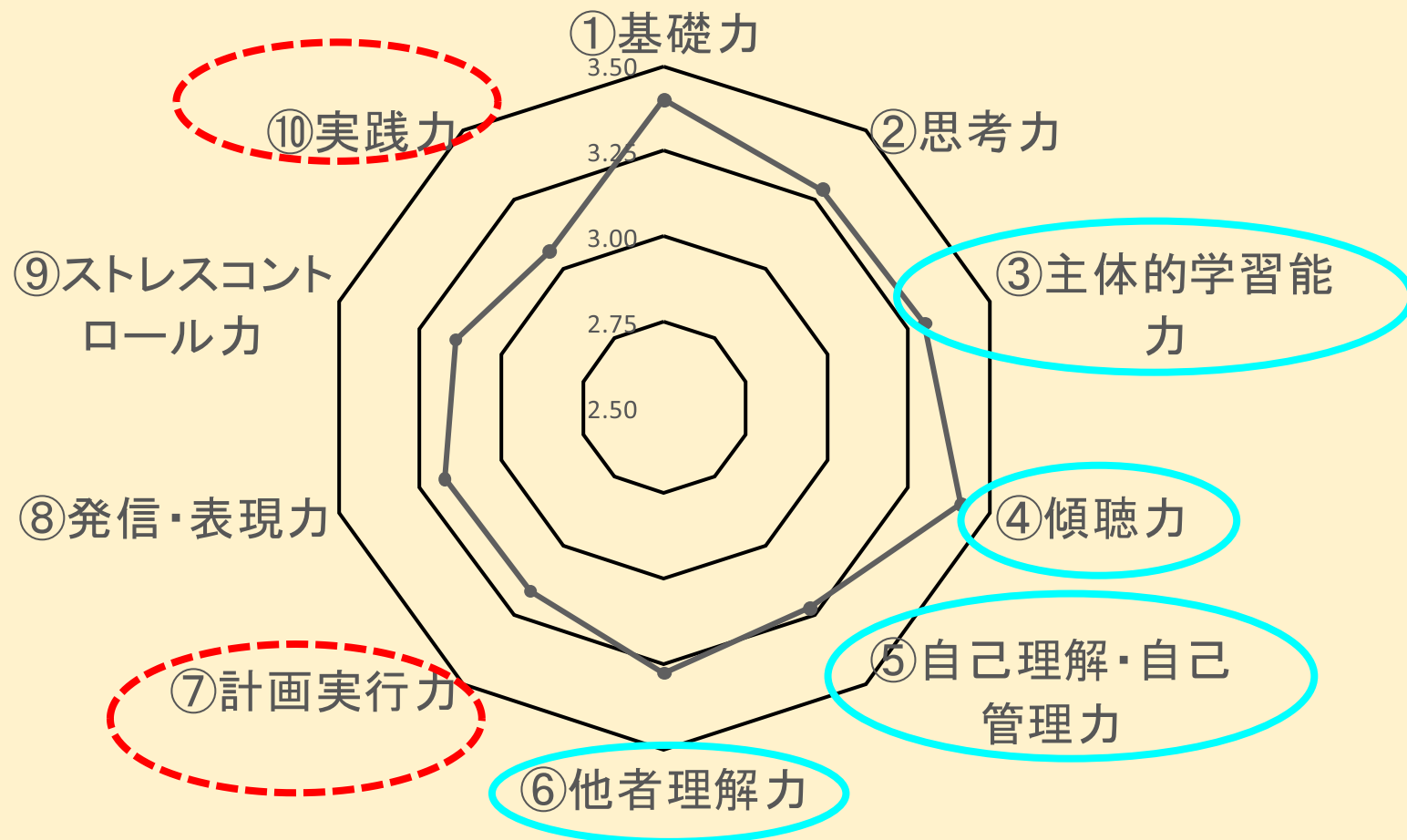
生徒会執行部の取組

①まず、生徒会執行部が特別活動(学校祭)の学習過程イメージを理解する。



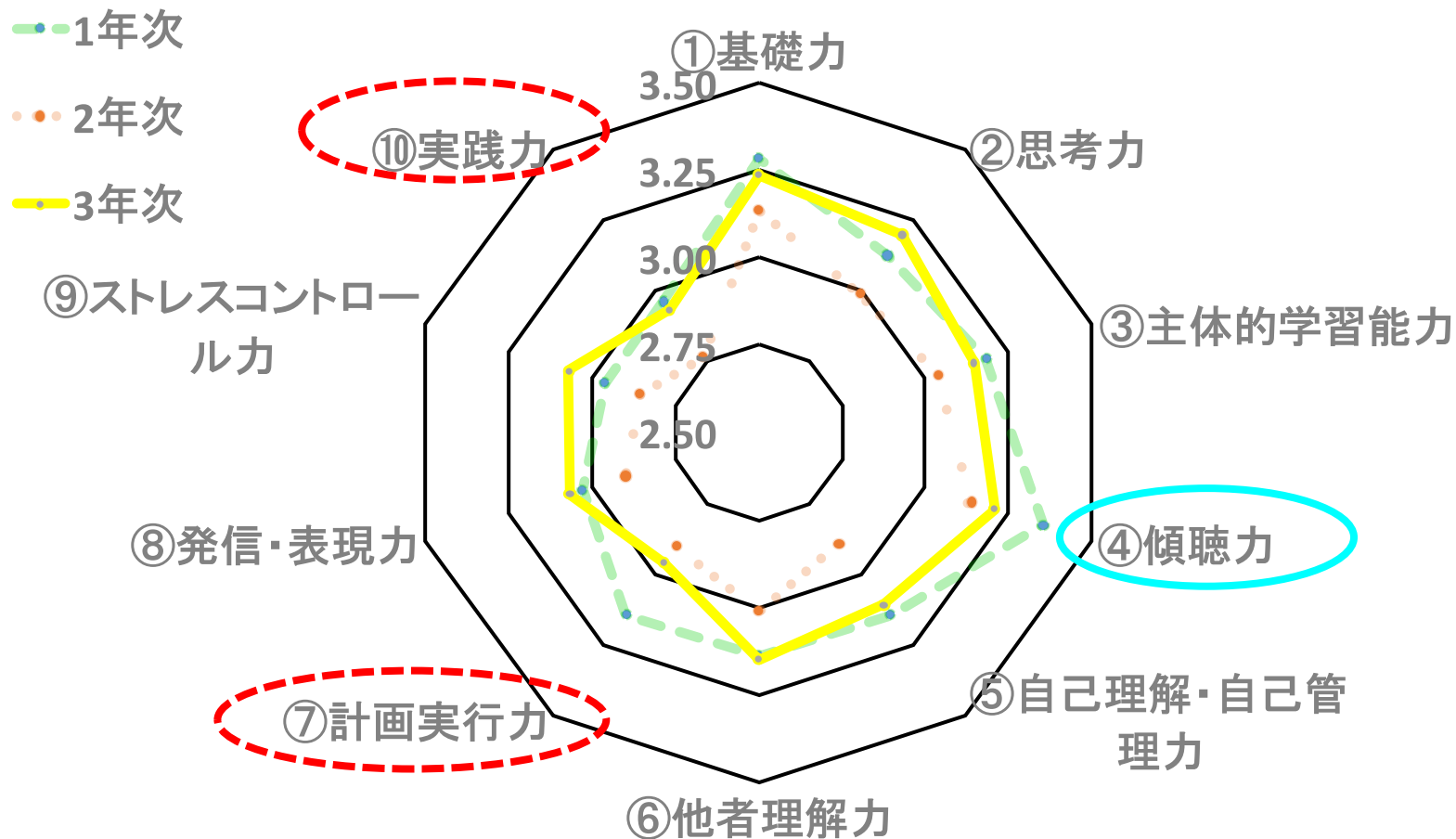
②次にR- PDCAサイクル【企画・計画(P)】・【実施(D)】・【市函ルーブリックを活用した評価(C)】・【分析結果(R)から改善(A)の実施】を意識した学校祭の企画・運営を行う。

令和元年度 柳星祭 市函DPルーブリック分析結果(全校)



- ・「③・⑤・⑥」は高く、「目的の浸透」、「主体的・協同的な活動」という点でねらい通りの成果が見られる。
- ・「④傾聴力」が高いのは市函生らしい良い特徴である。
- ・「⑦計画実行力」「⑩実践力」に注目すると、生徒の満足度が気になる。

令和元年度 柳星祭 市函DPルーブリック分析結果(学年比較)



- ・1年生は「④」「⑦」が特に高い ... 初行事を成功させるため？
- ・2年生が全ての項目で一番低い ... 中間学年の不安定さ？
- ・3年生は「⑦」「⑩」が1年生より低い ... 到達目標が高いため？

【生徒会執行部の振り返り】

・<“柳星祭”における各活動の改革> “文章減・図増”・“見える化(可視化)”

<改革結果>

・確認することや困っていることが、可視化により共有され、多様な価値観の集団(クラス)での協働的な活動に繋がった。

・協動的な活動が増えたことで、おのずと主体的な活動にも繋がった。

※反省もルーブリックで“可視化”できた。

【特活部の振り返り】

振り返りルーブリック結果から【課題の検討】

- ①計画をもっと練らせる時間が必要では？
- ②ルーブリックの評価分析、時期、基準は適切だったのか？
- ③集約方法の工夫が必要では？
- ④成果や評価・改善点を活用する方法は？

振り返りルーブリック結果から【課題解決方法の検討】

- ①LHR計画の見直しを図る。
- ②教員視点の評価・配付時期の検討・市函DP質問項目の吟味。
- ③集計でClassi(ICT)を活用する。
- ④評価・改善点を広く周知させるとともに、コミュニティ・スクールの制度を活用し地域・保護者と課題の共有を図る。